

令和7年度 富士見市民大学 環境講座 VOL. 1 自然環境編
ブラタモリならぬ「ブラふじみ」しながら富士見の自然を学びます 報告書

5回講座の第4回野外講座「湧き水の郷を歩くPART2 針ヶ谷・水子」を終えました。

日時 令和7年12月6日(土) 9:00～11:45

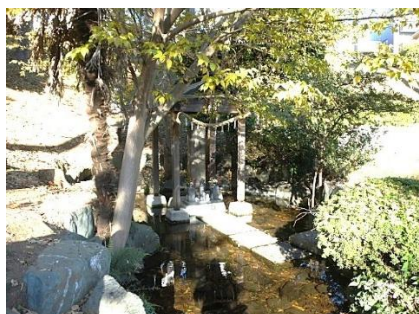
行程 みずほ台駅改札～栗谷津公園～栗谷津東公園～高野家別所水神～正綱氷川神社～
お井戸湧水～性蓮寺～石井緑地公園～石井坂～水谷公民館

参加者 9人

講師 埼玉県環境アドバイザー千種氏、富士見市ふるさと探訪部会 小林氏、保坂氏

《栗谷津公園の湧き水》

毎分3500ℓの市内第一の湧出量を誇る湧き水がある公園、1848年地元の有力者と出羽三山の修験者によって造立された俱利伽羅不動明王が存立する



俱利伽羅不動明王と湧き水



湧き水の池を見学



ふるさと探訪部会保坂氏の説明

《栗谷津東公園》

栗谷津公園の湧き水を暗渠（地下水路）にして水を流して水路と池を造っている。わさび田もあるが今は栽培されていない。

《高野家所有の保存樹林と湧き水、私有地を特別見学》

絶滅危惧種カタクリ・ヤマブキソウが咲くが最近減ってきている。「水神」と「湯殿山」と彫られた文字塔は、清水をたたえたこの池畔を聖地に見立てて、出羽三山系の修験者の行場の聖地として先人を偲んで高野家が建立した。



説明を受ける参加者



水神と湯殿山石塔



今年撮影のカタクリの写真説明

《正綱氷川神社》

水子三地蔵の一つ「山王坂地蔵」と青面金剛の彫られた庚申塔、江戸期には水子村の総鎮守だった。社殿裏に合祀された2基の弁財天は寛延2年（1749）造立でとても珍しい。

《おいど湧水と性蓮寺》

中世の鎌倉道の人馬の水飲み場であり生活用水だった。弁財天の水神を祀る祠がある。室町時代の難波田城主・上田周防守の菩提寺とされた古刹です。湧き水を引いた境内の池は水車を回すため溜池として使われていたとされる。



おいど湧水に見入る参加者 ふるさと探訪部会小林氏の説明 難波田城主・上田周防守の墓

《石井緑地公園》

絶滅危惧種のキンラン、キツネノカミソリの説明。管理作業は月1回第一土曜日午前におこなっている。落葉溜は世界農業遺産の落葉溜農法を体験するため小学校の総合学習で利用している。



講師千種氏の説明

落ち掃き体験をする参加者

落葉溜めのカブトムシ幼虫

石井坂経由で鎌倉道や将軍地蔵を見ながら水谷公民館へ帰着して解散しました。

《受講者の声》

- ・家の近くに、こんな隠された場所があるとは驚きました。自然が残されているんですね。
- ・湧き水の場所には、弁財天などの神様と祀られていて、昔の人がどれだけ水を大切にしていたかを知ることが出来ました。
- ・湧き水の場所や森が将来に残されていて、富士見市は緑地保全に力を入れていることがわかりました。
- ・富士見市は、台地と谷が入り混じった所が多く、素晴らしい所だと再認識しました。